



# 幸せの仏教国ブータン訪問記

副住職信映は、八月二十三日より八月三十日までアジアの仏教国ブータンを訪れ、ブータンが幸せの国と呼ばれるその由縁に触れた。

ブータンはヒマラヤ山中にある面積が九州ほどの国である。四方を山々に囲まれ、特に陸路での入国は容易ではない。現在、日本からの直行便は無く、今回はタイのバンコクを経由し空路での入国となった。

ブータンの国際空港がある。パロ(標高3300m)に到着し、すぐに心が踊る。空気が薄いからではない。飛行機を誘導する人から荷物を運送する人まで、空港のどの係員も民族衣装をまとっているのではない。さらにどの建物の装飾も実に意匠に富み、訪れる者の心を一気にブータン色に染めていくのだ。空港は周りを高山に囲まれ、世界でも離着陸の難しい空港の一つと言われている。その不安を乗り越えて降り立った地にはもてなしの心があふれていた。

ブータン入国のためのビザ取得は他国と事情が異なる。行動は必ず現地人ガイドを共にしなければならず、ビザはブータンの旅行店に申請を代行してもらう必要があるのだ。そのため今回は日本の旅行代理店を通じて現地旅行代理店に手配を依頼した。一応、日本語対応ガイドと言うことであったが、実際に私が対面したガイドは日本語がままならず、ガイドのカタコト日本語と、私のカタコトイングリッシュで会話するという終始妙なコミュニケーションとなった。しかしながらガイドの私をもてなそうとするその姿勢には感銘を受けた。長い歩行を伴う時には私の荷物を持つと言ひ、各地の名産をぜひ味わえと様々に勧められるのである。また、非常にマナーに敏感であり、お寺を訪れる際の礼儀作法などを詳細に教えてくれるのである。



行政庁舎兼寺院のゾン 装飾が美しい

## 《幸せのカギは仏教にアリ》

さて、ブータンを一躍有名にしたのはGNI(国民総幸福量)である。経済の指数であるGDP(国民総生産)よりも国民の幸福を優先して国のあり方を考えるというものである。そこには急激な経済発展による格差拡大などを危惧し、経済的豊かさよりも心の豊かさを求める国民性に由来するものである。その国民性の根底にあるもの、それは仏教思想に他ならないと今回の訪問で感じることができた。

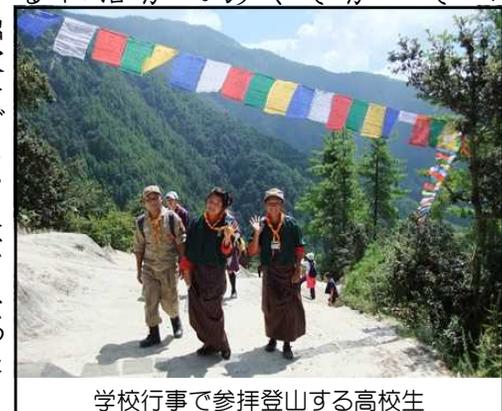


断崖にそびえるタクツァン僧院へ片道3時間登山

まずブータンに降りたつて感じられること、それは仏教に関するものの多さである。街の辻や橋のたもとにはマニ車と言うお経の入った大きな筒があり、行き交う人々はそのマニ車を手で回したり、水車で回したりと、とにかくマニ車を回して功德を日々積もうとしているのだ。ブータン人はマニ車を回すのがよほど好きらしく、最近では車のダッシュボードの上に太陽光発電によって自動で回るマニ車を設置する人も多く、ドライバーの車にも装備されていた。

また、町中や道路の真ん中で多くの犬や牛に出くわす。しかし車はクラクションを鳴らすでもなく、動物が過ぎ去るのを待つのである。ハエや蚊も決して叩かず、殺虫剤も使用しない。あらゆる生き物を大切にしているのだ。大切にすまわり、夜中に多くの犬が遠吠えをしながら、私の睡眠を邪魔するのであるが、ブータン人はお構いなしの様子であった。

さらにブータンの教育は仏教が基盤にあるようだ。いくつかの寺で現地の高校生に出会ったが、多くの生徒がお供え物のバター(灯の燃料となる)を持ち参拝していた。また、お寺には多くの子ども達が出家し、僧侶のたまごとして生活をしているのである。子ども達は仏教への興味から出家した者もいるが、多くは家庭の経済事情により出家せざるをえなくなった子ども達であった。しかし、たとえ貧しくても寺に出家すれば十分な教育が受けられるだけでなく、生活の保障もされるのである。そこには寺を支える多くの一般市民の布施や、国家予算による仏教保護の政策があるからである。



学校行事で参拝登山する高校生



車に装備された太陽光マニ車



伝統的なマニ車

## 《輪廻を信じ 福德を積む国民性》

このようにブータン国中にはとにかく仏教にあふれている。人々は

仏教の因果応報、輪廻の思想を心の基礎に置いているように見える。良い行いをすればより良い来世へ、悪い行いをすれば悪い来世を必ず引き起こすというものである。この世でなるべく殺生などの悪行をすることなく、篤く仏教を敬い、他人および他の命の幸福を願って行動し、自らのより良い来世を願っているのである。貪ること無かれ、足るを知り、つつしみ深く行動せよと、お釈迦様の声が届く。

経済が発展してゆくブータンは各地で建築工事や道路工事が進んでいる。経済格差が徐々に広がりを見せているものの、他の急速な経済発展を遂げる国のような国民のざらつきは少ないように感じられた。他人を押しつけてでも成り上がるという考えは馴染まないのかもしれない。経済的な豊かさに翻弄される日本人もこのブータンの国民性に学ぶべき点はいくらだろ。ブータンの国民が今後もこうであることを願う。



ブータンの僧侶達と



副住職担当、NPO文化センター 徳島教室のご案内  
 仏教講座「歎異抄」を読む 毎月第2月曜午後1時、  
 仏教講座「御文章」を読む 毎月第2金曜午前10時、  
 各講座、受講生募集中 6回半年で13,478円  
 問い合わせは、徳島駅前NPO文化センター(088-611-6881)

平成29年 年忌表	平成28年 年忌表
1周忌 平成28年	1周忌 平成27年
3回忌 平成27年	3回忌 平成26年
7回忌 平成23年	7回忌 平成22年
13回忌 平成17年	13回忌 平成16年
17回忌 平成13年	17回忌 平成12年
25回忌 平成 5年	25回忌 平成 4年
33回忌 昭和60年	33回忌 昭和59年
50回忌 昭和43年	50回忌 昭和42年
61回忌 昭和32年	61回忌 昭和31年
100回忌 大正 7年	100回忌 大正 6年
150回忌 慶応 4年	150回忌 慶応 3年
200回忌 明治元年	200回忌 文化14年
250回忌 文化15年	250回忌 明和 4年
300回忌 文政元年	300回忌 享保 2年
250回忌 明和 5年	
300回忌 享保 3年	

過去帳をお調べ下さい。